

特別展 「世界の織機と織物」

織って！みて！織りのカラクリ大発見！
ヨーロッパで紀元前から使われてきた錘を使った織機、カナダの少数民族「メネのヤマアラシ」のトゲを織り込んだ織物をはじめとして、世界各地の多種多様な織機と織物を紹介します。会場の2カ所では、さまざまな織りのカラクリも体験できます。

会期 9月13日(木)～11月27日(火)
会場 特別展示館および
本館1階エントランスホール

■関連イベント
◆ワークショップ
◆ミニレクチャー
◆みんなくセミナー

◆みんなくウィークエンド・サロン
開催日時など詳細についてはチラシ、ホームページ等で確認ください。

企画展 「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」

人間文化研究機構連携展示
この企画展では、私たちにとっての文化遺産の意義を改めて見直すとともに、その文化遺産を通じて、この震災・津波の記憶をいかに未来に継承し、次代の社会を築き上げていくのかを考える契機となればと願っています。

会期 9月27日(木)～11月27日(火)
会場 企画展示場
みんなく映画会/みんなくワールドシネマ
「君を想って海をゆく」
日時 9月22日(土・祝)
13時30分～16時30分(13時開場)
場所 講堂(先着450名)
※参加無料、申込不要
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布
【第3回現代インド・南アジアセミナー】
実施日 9月22日(土)、23日(日)、24日(月)
時間 13時30分～18時30分(予定)
会場 第5セミナー室
定員 70名
※参加無料・要申込(9月9日応募締切 先着順)
研究公演
「遠い記憶、呼びさます声——ダナンマル家の南インド古典音楽」
インド古典音楽では音楽が最も重要ですが、日本にはシタールやタブラなどの楽器が主に紹介されてきました。この公演では、20世紀はじめに活躍した大演奏家の流れをくむインドの音楽をご紹介します。
日時 10月14日(日) 13時30分～16時(13時開場)
会場 講堂(定員450名)
※参加無料・要申込
申込締切 9月27日(木) 申込ハガキ必着
公開講演会
「だから人類は地球を歩いた——太平洋へアメリカへ」
アメリカで誕生した人類は、ユーラシア大陸を経て、南アメリカ大陸やイースター島にまでどうやって移動したのでしょうか。最新の研究成果から、その壮大な移動の足跡をたどります。
日時 10月26日(金) 18時30分～20時40分(18時開場)
会場 日経ホール(東京都千代田区大手町1-13-7 日経ビル3階)
定員 600名
※参加無料、要申込

みんなくセミナー

会場 国立民族学博物館 講堂
時間 13時30分～15時(13時開場)
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

第412回 9月15日(土)
【特別展「世界の織機と織物」関連
手仕事への回帰
講師 吉本忍(国立民族学博物館教授)



アイヌの刀を吊るす帯(エムシアン)の機織り

人類史の中核技術として位置づけられる織りの技術は、産業革命以降に人類が手仕事を放棄し続けてきたこと深くかかわっています。その歴史的経緯と現代社会が直面する危機的状況、そして、全人類の手仕事への回帰の必要性についてお話しします。

第413回 10月20日(土)

【特別展「世界の織機と織物」関連
「バントウの人びとのラファイア織り」
講師 井関和代(大阪芸術大学教授)



「軍ピロッド」の布で知られるクハの杭機(くいばた)

マダガスカル原産のラファイアシの葉繊維から布を織るバントウ語族の人びとは、中央アフリカのコンゴ盆地からカメルーンのパメンダ高原に分布しています。彼らが使っているラファイア機について紹介します。

国立民族学博物館友の会 電話06-6877-8893(平日9時～17時) FAX06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/ e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会

友の会講演会(大阪)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員登録必須)

第412回 10月6日(土) 14時～15時
【特別展「世界の織機と織物」関連】
世界の織機と異形の織物
講師 吉本忍(国立民族学博物館教授)

世界各地では、さまざまな織機を使って、さまざまな織物が織られてきました。今回は、それらのうちから、輪状、楕円状、管状、丸紐状、ひだ状、交叉状、フオーク状、うろこ状、袋状などの異形の織物と、それらを織る織機を紹介します。

第413回 11月3日(土) 14時～15時
ビデオトークより
祭礼の変容を映像で見る
インド・グジャラートの女神祭礼
講師 三尾稔(国立民族学博物館准教授)

宗教祭礼は永続的なものと思われがちですが、急速に変化することがあります。インドの女神祭礼の資料映像を見ながら、何が、なぜ変わるのか。また、それでも変わらないものは何かを解説します。すでに公開されている番組と、制作中のものを比較しながら考えてみます。

第66回体験セミナー

【企画展「記憶をつなぐ」関連
「稲むらの火祭り」訪問と
企画展および関連催し「鶴鳥神楽」見学会

震災の記憶を世代をこえて伝えるための方策が問われています。その事例のひとつである和歌山県広川町の「稲むらの火」の逸話を伝える祭りや町での取り組みなどについて現地で学びます。翌日は国立民族学博物館に企画展および関連催し「鶴鳥神楽(岩手県)」を見学します。

開催日 10月20日(土)～21日(日) 1泊2日
講師 日高真吾(国立民族学博物館准教授)
参加費 25500円(宿泊費など含む)
定員 25名(先着順。最少催行人員13名)
申込、問合せは上記「友の会」まで。

●無料観覧日のお知らせ
9月15日(土)は万国博覧会閉幕記念のため、9月17日(月・祝)は敬老の日のため本館展示および特別展示を無料で観覧いただけます。ただし17日については自然文化園(有料区域)を通行される場合は、入園料が必要です。※イベントや刊行物について、くわしくはホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は9時から17時(土日祝を除く)です。

刊行物紹介

■ベン・グロー&スーレシュ・K・ローダ著、岸上伸啓 訳
『格差の世界地図』丸善出版 定価:2,980円
本書は経済のみならず、権力、社会、ジェンダー、教育、環境におけるさまざまな格差をグローバルな視点からグラフや数値で示すことにより、世界の格差の現状を目で見て理解できるように紹介している。

■池谷和信 編
『エリア・スタディーズ 99 ポツワナを知るための52章』明石書店 定価:2,100円
南アフリカの北の内陸国ポツワナ。有史以来ほとんど戦争が行われたことのない平和な国であり、安定した政治経済とともに豊かな自然環境を保っている。紛争や貧困を連想しがちなアフリカ大陸とは一味違う、もう一つのアフリカの姿を様々な角度から紹介する。

■『月刊みんなく』編集室 編
『食べられる生きものたち——世界の民族と食文化48』丸善出版 定価:1,995円
本書は、みんなくの広報誌『月刊みんなく』に連載された「生きもの博物誌」より食物をテーマにしたエッセイを抜粋したもので、文化人類学者が体験した食文化の民族誌である。

ビデオトーク新番組(9月公開予定)

番組番号	タイトル	時間(分)	監修者	地域	番組種別
1705	アメリカ先住民 ホビの銀細工づくり：銀板に重ね合わせる伝統	24	鈴木紀、伊藤敦規	アメリカ	短編
1318	イスラム教の礼拝と巡礼	14	国立民族学博物館	西アジア	短編
1702	バスニ・カラン村の領主のくらし	15	三尾稔	南アジア	短編
1703	バスニ・カラン村の女神祭礼	26	三尾稔	南アジア	短編
1704	ラージャスターンの戦士の霊 サガスバウジー	32	三尾稔	南アジア	短編
7218	ウダイプルの女神祭礼	74	三尾稔	南アジア	研究用映像
3694	Kulintang : Gong Music from Mindanao in the Southern Philippines	23	Usopay Hamdag Cadar, TERADA Yoshitaka	東南アジア	短編(英語)
8007	Kakoolintang o Manga Meranao	23	Usopay Hamdag Cadar, TERADA Yoshitaka	東南アジア	短編(マラオ語)
7158	ものとかぞく：「2002年ソウルスタイル」の記録	50	朝倉敏夫、佐藤浩司	朝鮮半島	研究用映像
1700	雲南省ペー族の葬式	20	横山廣子	中国地域	短編
1701	誰も知らなかった国トウバ：研究者はなぜトウバへ行ったのか	20	小長谷有紀	中央・北アジア	短編
7219	トウバに魅せられた人々	63	小長谷有紀	中央・北アジア	研究用映像
1707	被災した民俗資料の保存修復：石川県穴水町指定「明泉寺台燈籠」	24	日高真吾	日本/中部	短編

国立民族学博物館 ミュージアム・ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休

ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
「World Wide Bazaar」
http://www.senri-f.or.jp/shop/

岩手県・山田の醤油

9月27日(木)から企画展「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」が開催されます(11月27日まで)。この企画展にあわせて、ミュージアム・ショップでは会期中、岩手県山田町にあって、東日本大震災による津波の影響で壊滅してしまいましたが、「山田の醤油」は内陸の工場で作っていたので無事でした。味は甘めで、白身魚のお刺身や煮魚、肉じゃがなど和食の味付けに最適です。この機会に、ぜひ東北の醤油を味わってみてください。



山田の醤油
1リットル 398円
100ミリリットル 100円

価格はすべて税込